



開幕まであと100日!

中部芸術文化記者クラブ同日発表

平成25年5月2日(木)
 愛知県県民生活部文化芸術課
 国際芸術祭推進室事業第二G
 担当:小田・朝岡・田邊
 電話:052-971-6127
 内線:724-690・693・695

あいちトリエンナーレ 2013 参加アーティストを学校へ派遣します

あいちトリエンナーレでは、アートとの出会いを通じてより多くの子どもの感性や創造性の成長に働きかけるため、学校向けプログラムを展開しています。その一環として、参加アーティストを学校へ派遣する「アーティスト派遣事業」をトリエンナーレの開幕に先がけて実施します。

児童・生徒とアーティストと一緒に作品制作等を行う過程がご覧いただけます。

1 派遣アーティスト したみちもとゆき 下道基行 (現代美術)

(1) 内容

「境界」についてのワークショップを行い、その中で生徒が作成する文章を用いてあいちトリエンナーレ2013 出品作品の制作へ繋げる (1 時限×2 回)。

【1 回目】アーティストがスライドを用いて、過去の作品に触れながらプレゼンテーションを行い、授業の最後に、生徒に各々が思う「境界」を探すよう課題を出す。

【2 回目】生徒が自分の思う「境界」についてワークシートに文章で記入し、アーティストがその中から選んだ文章を読み上げる。

(2) 派遣先・日程等

派遣先	対象	日程	取材可能時間
大府市立大府中学校 (大府市桃山町3丁目216)	3年生 (8学級)	《1 回目》 5月7日(火) 1~4時限 5月10日(金) 1~4時限 《2 回目》 5月13日(月) 1~4時限 5月17日(金) 1~4時限	5月13日(月) 5月17日(金) 10時35分~ 12時15分 (3~4時限)
刈谷市立刈谷東中学校 (刈谷市山池町1丁目201)	2年生 (6学級)	《1 回目》 7月9日(火) 1~3時限 7月11日(木) 3~5時限 《2 回目》 7月16日(火) 1~3時限 7月17日(水) 3~5時限	7月16日(火) 9時50分~ 11時45分 (2~3時限)

※ 1 学級ごと1 時限ずつ、2 回に分けて授業を行う。

(3) 取材について

取材を希望される方は、以下の期限までに貴社名、取材時間、人数、ご担当者名及びご連絡先(携帯番号)を電話等にて裏面の《取材連絡先》までご連絡いただきますようお願いいたします。

- ・大府市立大府中学校:5月10日(金)15時まで
- ・刈谷市立刈谷東中学校:7月12日(金)15時まで

2 派遣アーティスト マーロン・グリフィス（現代美術）

(1) 内容

作家の出身国であるトリニダード・トバゴのカーニバルで用いられるマスクを、伝統的な手法と現代の技法を織り交ぜて制作する。トリエンナーレ会期中に行う予定のカーニバルの参加者が、ワークショップで制作したマスクを着用する。

【1回目】トリニダード・トバゴのカーニバルとマスクの制作方法、また企画の意図についてプレゼンテーションを行う。

【2回目】生徒がマスクを制作する。

(2) 派遣先・日程等

派遣先	対象	日程	取材可能時間
愛知県立 愛知工業高等学校 (名古屋市北区福徳町広瀬 島 350-4)	デザイン科 2年生 (1学級)	《1回目》 5月22日(水) 3時限 《2回目》 6月12日(水) 2~3時限	6月12日(水) 9時55分~ 11時45分 (2~3時限)

(3) 取材について

取材を希望される方は、6月11日(火)15時までに貴社名、取材時間、人数、ご担当者名及びご連絡先(携帯番号)を電話等にて《取材連絡先》までご連絡いただきますようお願いいたします。

3 派遣アーティスト ままごと（パフォーミングアーツ）

(1) 内容

あいちトリエンナーレ2013上演作品の試演を行い、児童の反応を本公演に反映させる。演劇を生業としている大人がいることを子どもたちに伝えるほか、学校側の要望に応じて、ウォーミングアップや内容に応じたワークショップも行う予定。

(2) 派遣先・日程等

派遣先	対象	日程	取材可能時間
豊橋市立松山小学校 (豊橋市西松山町 42)	4年生 (2学級)	7月11日(木) 3~4時限	7月11日(木) 10時40分~ 12時45分 (3~4時限)

※この他、名古屋市内の小学校1校でも実施予定。

(3) 取材について

取材を希望される方は、7月10日(水)15時までに貴社名、取材時間、人数、ご担当者名及びご連絡先(携帯番号)を電話等にて《取材連絡先》までご連絡いただきますようお願いいたします。

《取材連絡先》

連絡先：あいちトリエンナーレ実行委員会事務局（事業第二グループ）

担当者：小田、朝岡、田邊

電話：052-971-6127（ダイヤルイン）

FAX：052-971-6115

E-mail：geijutsusai@pref.aichi.lg.jp

(参考)

派遣アーティスト

下道基行 (SHITAMICHI Motoyuki) 〈現代美術〉

1978年岡山県生まれ。名古屋を拠点に活動。

2001年武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業。2003年東京総合写真専門学校研究科中退。砲台や戦闘機の格納庫など日本各地に残る軍事施設跡を4年間かけて調査・撮影し、出版もされた「戦争のかたち」シリーズ(2001-2005)や、アメリカ・台湾・ロシア・韓国など日本の植民地時代の遺構として残る鳥居を撮影した代表的なシリーズ「torii」(2006-2012)など、その土地のフィールドワークをベースにした制作活動で知られる。彼の作品は、風景のドキュメントでも、歴史的な事実のアーカイブでもない。生活のなかに埋没して忘却されかけている物語、あるいは些細すぎて明確には意識化されない日常的な物事を、写真やイベント、インタビューなどの手法によって編集することで顕在化させ、現代の私たちにとってもいまだ地続きの出来事として「再」提示するものである。2012年に開催された光州ビエンナーレでは新人賞を受賞。

マーロン・グリフィス (Marlon GRIFFITH) 〈現代美術〉

1976年ポート・オブ・スペイン(トリニダード・トバゴ)生まれ。名古屋を拠点に活動。

マスと呼ばれるトリニダードのカーニバルのコスチューム・デザイナーとして活動後、観客も参加できるパレードの作品を制作している。2004年のBag Factory Artists' Studios(ヨハネスブルグ/南アフリカ)でのレジデンスでは、伝統的なマスと仮面制作のワークショップを行い、他のアーティストや地元住民とカーニバルを行った。2008年には光州ビエンナーレのパブリックパフォーマンスイベント「SPRING」で、光州事件とトリニダードのカーニバルの起源を題材にした《Runaway Reaction》を発表。パレードのようなパフォーマンスの他に、彫刻作品やインスタレーションも発表している。代表作には女性の首と胸にベビーパウダーでファッション・ブランドのロゴを転写する写真シリーズ《Powder Box》がある。2004年から、ヨハネスブルグ、美濃(日本)、キングストン(ジャマイカ)、ナッソー(バハマ)、セント(アメリカ)でアーティスト・イン・レジデンスに参加。2009年のCAPE09(ケープタウン/南アフリカ)や2012年、マニフェスタ9の関連イベント「コスモポリタン・ストレンジャー」(ベルギー)などの展覧会に参加。

ままごと (mamagoto) 〈パフォーマンスアート〉

劇作家・演出家である柴幸男(1982年愛知県一宮市生まれ、平成23年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞受賞)の作品を上演する団体。

何気ない日常の機微を丁寧にすくいとる戯曲と、演劇外の発想を持ち込んだ演出から普遍的な世界を描く。演劇を「ままごと」のようにより身近に。より豊かに。あいちトリエンナーレ2010 祝祭ウィーク事業出演団体。